



平成20年6月26日

「2008年岩手・宮城内陸地震に関する総合調査」への 科学研究費補助金（特別研究促進費）の交付について

文部科学省では、2008年岩手・宮城内陸地震について、余震活動調査や地殻変動調査等を実施することにより、近年日本国内で発生した逆断層型の内陸地震としては最大規模のものである本地震の発生機構を学術的に解明し、本地域のみならず他の地域における地震発生予測にも重要な役割を果たし、今後の地震防災等に役立てるため、東北大学等の研究者に下記の通り科学研究費補助金（特別研究促進費）を交付することといたしましたので、お知らせいたします。

1. 研究課題名：2008年岩手・宮城内陸地震に関する総合調査

うみの のりひと

2. 研究代表者：海野 徳仁（東北大学理学研究科教授）

電話 022（225）1950

3. 研究組織：東北大学、東京大学、弘前大学、九州大学、京都大学、名古屋大学、北海道大学、新潟大学、大阪大学、専修大学、東京経済大学、
（独）防災科学技術研究所の研究者（計19名）

4. 研究経費：1, 462万円（科学研究費補助金（特別研究促進費））

5. 研究概要等：別紙のとおり

<お問い合わせ>

研究開発局地震・防災研究課

課長補佐

梅田 裕介（内線 4433）

研究振興局学術研究助成課

課長補佐

石田 雄三（内線 4311）

電話：03-5253-4111（代表）

研究計画の概要

研究課題 2008年岩手・宮城内陸地震に関する総合調査

研究代表者 海野徳仁 東北大学理学研究科 教授

研究目的 2008年6月14日08時43分頃、岩手県内陸南部の深さ約8kmでマグニチュード(M)7.2(暫定値)の地震が発生した。この地震により、岩手県と宮城県で最大震度6強を観測し、大きな被害をもたらした。発震機構は西北西―東南東方向に圧縮軸を持つ逆断層型で、地殻内の浅い地震である。今回の地震活動に伴い、4000ガルを超える大きな加速度が観測され、建物被害と大規模な斜面災害等が発生した。

この地震の震源域北東部に隣接して北上低地西縁断層帯(全体が一度に活動した場合の推定マグニチュードは7.8)が存在している。地表で確認される活断層と地下の震源断層との関係を解明することは、活断層の活動評価研究上も非常に重要な課題である。震源断層の実態を明らかにするためには、臨時地震観測を実施して正確な余震の空間分布を決定することが必要不可欠である。さらに、地殻変動観測および変動地形学的調査により、地表における変動を把握し、北上低地西縁断層帯等の活構造との関連を明らかにする必要がある。今回の地震は、近年日本国内で発生した逆断層型の内陸地震としては最大規模の地震であり、このような大規模な地震の発生機構を理解することは、他の地域における地震発生予測にも必要不可欠であり、社会的にも強く要請されることである。

本研究では、余震活動調査や地殻変動調査により地震発生機構の詳細を把握するとともに、強震観測・斜面災害調査により被害の特徴と要因を明らかにする。また、今回の地震が地域経済に及ぼした影響や災害救援活動の現状を把握することによって、今後の地震防災に資することを目的とする。

調査内容 1. 陸上臨時地震観測による余震活動調査

多数の陸上臨時地震観測点を設置し余震観測を行う。正確な余震の空間分布により、震源断層を求め、震源断層と北上低地西縁断層帯等の活構造との関係を明らかにする。また、余震発生の変動時間変化、余震の発震機構解の時空間変化を求める。地下の地震波速度構造を詳細に調査して、地殻流体の挙動と内陸地震の発生機構の関係を調査する。

2. GPS及び変動地形学的手法を用いた地殻変動調査

震源域にGPS観測点を設置し、地震後の正確な地殻変動を調査する。また、震源域周辺で変動地形学的調査を実施し、北上低地西縁断層帯等の活構造と震源断層との関係についての基礎的なデータを取得する。

3. 災害調査・強震観測による強震動発生特性調査

余震の強震動を観測することにより、強震動発生機構の解明を行う。斜面災害、建物被害を調査し、被害の特徴と要因を明らかにする。

4. 人的被害及び災害救援に関する調査

地震が地域経済に及ぼした影響、及び災害救援における災害NPO・ボランティアの活動について、最新の現状を把握することによって、災害対応に関する現場的かつ学術的な考察を行い、実践可能かつ持続可能な提案を行う。

研究組織

(研究代表者)

海野 徳仁	東北大学理学研究科教授	(地震学)	研究統括
-------	-------------	-------	------

(研究分担者*及び連携研究者)

1. 陸上臨時地震観測による余震活動調査

平田 直*	東京大学地震研究所教授	(観測地震学)	余震観測・解析
小菅 正裕*	弘前大学理工学研究科准教授	(地震学)	余震観測・解析
松島 健*	九州大学理学院准教授	(地震学)	余震観測・解析
飯尾 能久*	京都大学防災研究所教授	(地震学)	余震観測・解析
浅野 陽一	(独)防災科学技術研究所 地震研究部・研究員	(地震学)	余震観測・解析
岡田 知己	東北大学理学研究科准教授	(地震学)	余震観測・解析

2. GPS及び変動地形学的手法を用いた地殻変動調査

鷺谷 威*	名古屋大学環境学研究科教授	(測地学)	GPS観測・解析
笠原 稔*	北海道大学理学院教授	(測地学)	GPS観測・解析
今泉 俊文	東北大学理学研究科教授	(変動地形学)	変動地形調査
三浦 哲	東北大学理学研究科准教授	(測地学)	GPS観測・解析

3. 災害調査・強震観測による強震動発生特性調査

丸井 英明*	新潟大学災害復興科学センター	(土木工学)	地すべり調査
源栄 正人	東北大学工学研究科教授	(地震工学)	地震動と被害の関係 調査
瀬戸 一起	東京大学地震研究所教授	(強震動地震学)	強震観測
福岡 浩	京都大学防災研究所准教授	(土質強度)	地すべり調査

4. 人的被害及び災害救援に関する調査

田中 淳*	東京大学情報学環総合防災情報研究 センター教授	(災害情報論)	人的被害救援調査
渥美 公秀	大阪大学コミュニケーションデザイン・ センター准教授	(社会心理学)	ボランティア調査
大矢根 淳	専修大学文学部教授	(地域社会学)	地域組織調査
吉井 博明	東京経済大学コミュニケーション学部教授	(都市防災学)	人的被害救援調査

2008年岩手・宮城内陸地震に関する総合調査 (科学研究費補助金(特別研究促進費))

目的

- 2008年6月14日に発生した岩手県南部を震源とする大地震に関し、国内の社会的要請を踏まえ、大地震によってもたらされた地震災害を、我が国研究者の学術的知見を結集し、総合的な調査を行うことにより、地震発生機構の解明と今後の地震防災等に資する。

内容

● ①陸上臨時地震観測による余震活動調査

多数の陸上臨時地震観測点を設置し余震観測を行う。正確な余震の空間分布により、震源断層を求め、震源断層と北上低地西縁断層帯等の活構造との関係を明らかにする。また、余震発生の時間変化、余震の発震機構解の時空間変化を求める。地下の地震波速度構造を詳細に調査して、地殻流体の挙動と内陸地震の発生機構の関係を調査する。

● ②GPS及び変動地形学的手法を用いた地殻変動調査

震源域にGPS観測点を設置し、地震後の正確な地殻変動を調査する。また、震源域周辺で変動地形学的調査を実施し、北上低地西縁断層帯等の活構造と震源断層との関係についての基礎的なデータを取得する。

● ③災害調査・強震観測による強震動発生特性調査

余震の強震動を観測することにより、強震動発生機構の解明を行う。斜面災害、建物被害を調査し、被害の特徴と要因を明らかにする。

● ④人的被害及び災害救援に関する調査

地震が地域経済に及ぼした影響、及び災害救援における災害NPO・ボランティアの活動について、最新の現状を把握することによって、災害対応に関する現場的かつ学術的な考察を行い、実践可能かつ持続可能な提案を行う。